令和６年３月22日（金）
修了式訓話

今年度を振り返り、次年度を見とおす
ー「教養」という視点を持とうー

校長　下村　昌弘

はじめに

○　３月も後半になりました。桜の開花宣言は明日でしたが、武高坂の桜も昨日からぽつぽつ咲き始めました。朝夕の寒さはまだ残りますが、なんとなく心沸き立つ季節になりました。このワクワク感に乗じて何かを始めるにはいい季節ではないでしょうか。

○　今日は修了式です。修了式はこの一年間の総括・振り返りをして言語化する（ことばにして留める）日です。「振り返ること」は「見とおすこと」でもあります。この２つはセットですからしっかり振り返りながらこれからビジョンを立てましょう。

○　そして「振り返り（リフレクション）」とは「反射・反響。映像・影」の意味です。つまり自分をスクリーンに投影して、客観的にそして批判的にそれを見つめる行為でもあります。客観視できる人は必ず精神の強い人です。そういう強い人におなりなさい。

１　探究を習慣にする学校

○　私自身、振り返ってみると、この１年間「皆さんへのリスペクトを持って自主性・主体性を育む」ということを最上位の目標にいろいろな判断をしてきました。そしてこの最上位の目標を「武雄高校は探究を習慣にする学校だ」というように「探究」という言葉で表現してきました。

○　この言葉が皆さんの中にどれくらい残っているでしょうか。「探究」という言葉が皆さんや先生方の中から聞こえてくると正直うれしく思いましたし、中学生や地域の方からも「武雄高校は探究を大切にしていますね」という声を聞くこともありました。

○　私の言う「探究」は個別・具体の「探究活動」のこともちろん指しますが、もっと大きくと言うと、「皆さんに主体性を持ってほしい」ということです。「探究」とはそういう主体性という性質を持たねばそもそも成り立たない活動だからです。

○　ところで、2 月に私がお願いした『主体性及び人権意識を育む学校生活の確立に向けたアンケート調査』結果は、TAKE OFF press でも若干取り上げましたが、皆さんの中から「ルールで縛らず、武雄高校生を信じてほしい」「勉強に対してはもっと自主的・主体的に取り組みたい」といった意見がたくさんみられ、頼もしく感じたところです。

○　皆さんの一言一言に目を通しながら、武雄高校の良さは、勉強をしやすい雰囲気・学習意欲の高い仲間がいること・先生方の熱心な指導にあると改めて感じ、主体性・自主性を重視することで、皆さんの強みは益々磨かれると確信した次第です。

○　私は卒業式で「与えられたものや与えられた時間に汲々とする日々は終わりにしよう。正解を探す、答え合わせをすると姿勢から解放されよう。自ら問いを探す毎日であってほしい」と言いました。同じことを皆さんにも言いたいと思い紹介しました。

○　こういう力、こういう意識を養える、分かりやすい場面がほかならぬ「総合的な探究の時間」です。だから「探究」をないがしろにする学校はきっとこれから立ちいかなくなるだろうと思っています。ですから、武雄高校は来年度も「探究」を大事にしていきたい。皆さんとこの意識を共有したいと思っています。

２　今年度を振り返って進路に関連するトピックを紹介しながらこれからを考える

（１）大学入試

○　今年度の大学入試結果の九大合格 11 名は大きなトピックです。うち 4 名が総合型で合格、2 名が後期入試で合格しました。半数以上が、教科を主とする方法以外で合格を勝ち取ったことは特筆すべきことだと思います。

○　それに、ここ数年、総合型・学校推薦型に挑戦する人が増えました。

○　実はこの制度が始まったころ「受験生の早期囲い込み（青田買い）のために乱用されている」という批判がありました。年内に合否を出す大学が多いので、学力が十分ついていない段階での入試になり、その結果、入学者が大学の勉強についていけない（単位を落とす、留年する）ことが問題視されたのです。

○　しかし今は違います。国公立大学の採用枠が増えて、大学のアドミッションポリシー（期待する学生像）に合う人材を発掘するという本来の目的が機能し始めています。総合型・学校推薦型で合格した学生は学ぶモチベーションが高く、積極的に学んでいるという話を大学関係者から聞きました。

○　こういうことから、皆さんには総合型・学校推薦型入試は「探究」と親和性が高いことも知っておいてほしいと思います。

（２）東京大学の取組

○　2027 年（3 年後の秋）からユニークな教育課程を始まります。学部 4 年と大学院修士課程 1 年にまたがる 5 年制で文・理にとらわれず全て学ぶコースです。設置の目的は、「気候変動」や「生物多様性」など、地球規模での課題解決に活躍するイノベーターを育成するためだそうです。

○　この文理融合・文理横断の考え方は徐々に広がっています。それは「温暖化」や「デジタル化」、「先進医療の進化」といった、現代社会が直面する問題は、テクノロジー（技術）が進むことによって新たなリスクを生み、そのリスクの要因は１つではなく複雑だからです。

○　そうした問題の解決策を生み出すには、自然科学系の学問（物理、化学、生物等）はもちろんですが、人文・社会科学系の学問（経済学、政治、文化人類学等）が必要になってきます。

○　例えば、扱い方を間違うと人類の滅亡にもつながりかねない「人工知能」や「ゲノム編集」などのテクノロジーは、「そもそもそれをやってもいいのか」というような倫理学や哲学の視点も必要です。

○　つまり、ひとつの専門性を突き詰める場合、その前の段階で、文理の枠を超えた幅広い学問の土台が必要だというわけです。

○　そういう意味で、高校でも文系・理系をなくそうという動きがないわけではありません。文部科学省は今年度それを強く提唱し始めたので、もしかすると将来はそうなるかもしれません。

○　しかし、現状の大学入試制度を考えた場合、例えば、人文系の学部（文・法・経済等）は国語や英語を重視していますし、自然科学系の学部（理・工・農・医等）は理科や数学を重視しています。

○　一方、高校の授業は週 35 時間という限られた枠しかなく、その中でいかに的確に効率よく受験に備えるかを考えた場合、文系と理系に分けざるをえないという事情があります。

○　そこで、私が皆さんに言いたいことは、確かに高校段階では文・理の別はあるけれども、それぞれのコースで、学ぶ教科・科目を一つとしておろそかにしないほうがいいということです。全てを教養として学ぶことが将来を考えた時に得策なのです。（受験で要らないから捨てるなんて考えはゆめゆめ思ってはいけません。）

（３）佐々木麟太郎の選択（麟は麒麟の麟）

○　岩手花巻東高校野球部の佐々木麟太郎選手が日本の大学やプロ野球には進まず、アメリカのスタンフォード大学（世界大学ランキング 2 位。1 位オックスフォード。東大は 28 位）に進学しました。これはすごいことです。

○　アメリカの大学は競技と学業の両立が当たり前の世界で、野球漬けの日々とは全く異なります。つまり「競技」と「勉強」を毎日継続的に続けることになるわけで、素人目には「競技力が落ちるのでは」という心配があるわけです。

○　しかし、彼がスタンフォードを選んだのは、おそらく、日本のトップアスリートたちが、これまで競技だけに没頭するあまり、発揮できなかった「別の能力」を引き出す、そのための最適の環境を得たいという思いからだったのではないでしょうか。

○　アメリカの大学には日本の学生スポーツと違って練習日数や練習時間を制限するルールがあるそうです。スポーツ漬けにはならない。勉強をする時間を十分持たねばならないのです。

○　そのことによってフィジカルな能力と思考する力が相乗的に鍛えられるということではないかと私は思っています。

○　アメリカの高校生も、1 つの競技にのめり込まない。季節によってアメフトをやったりバスケットをやったり複数のスポーツを楽しむのが普通だという話も、インターナショナルスクールで教えている私の知り合いから聞いたことがあります。

○　この 3 月にあった佐賀県の高校入試の英語の問題でも、いろいろなスポーツを楽しむ女の子の話が英文で取り上げられていて、そこにタイトルをつけなさいといった問題が出題されました。そこでの感情は“tired”（いろいろやって疲れるよね）ではなく“enjoy”（いろいろやって楽しい）が正解の選択肢に含まれていました。これは面白い問題だなと感じました。佐賀県の高校で学ぶ新しい人たちへのメッセージを感じました。

○　話を戻しますが、佐々木麟太郎選手が成功すれば、日本のスポーツ界もこれまでのマインドセット（思考パターン）が変わるでしょう。

３　まとめ　-教養という視点をこそ大切に-

○　3 月 15 日の TAKE OFF press 最終号でも記事にしましたが、高校生像がこの 40 年間でずいぶん変わりました。

○　大量生産・大量消費、いわゆる Society3.0 の工業社会に青春時代を送った我々世代とは違い、Society4.0 の情報社会、そして次に来る 5.0 の新しい時代を生きる皆さんには「総合知」といった「幅広いものの見方・考え方」が求められています。

○　そのためには、進学や就職という「将来の目標」や「勉強する目的」を持つ（所来のビジョンを持つ）ことは大事です。しかし、それと同時に、高校・大学時代にはいろいろな勉強・いろいろな経験をして、それが「自分を見つめなおす絶好の機会」になるのだと意識してほしいのです。

○　そういう意味で、皆さんには「いろいろ勉強する」、言葉を変えると「体験を含めて、幅広くものを見る力、柔軟に対応する姿勢」すなわち「教養を身につける」という意識を持ってほしいと思います。

おわりに

○　3 月から 4 月の始業式までは、比較的、自分の時間が戻ってきたのではないでしょうか。3 月はもう半分以上が過ぎましたが、幸いにして始業式まではまだ半月以上の時間があります。何か一つやり遂げるには十分な時間です。

○　今日、そして春休みは、この１年間を振り返り、足りなかった部分を主体的に補う時間にあててほしいと思います。　そしてその根底には、今日話をした「教養」という考え方を忘れないでください。

○　新年度にひとつステージの上がった皆さんと会えることを楽しみにしています。